

「外海ふれあい広場」

～ 地域、学校(PTA)、そして公民館 それぞれの思い ～

外海公民館

1 はじめに

「外海」という地名は、近世(江戸時代の頃)より、西彼杵半島西岸の角力灘沿岸一帯を外海(そとめ、ほかめ)、東岸の大村湾沿岸を内海(うちめ)と呼ぶことに由来します。この外海地域は、山間部の森林の緑と起伏に富んだ長い海岸部に見られる海の碧さを満喫でき、古くから神浦・出津・黒崎・池島の4地区が、社会の情勢に影響を受けながら、地区間の交流を深め固有の文化をはぐくんできました。



こうした地域の状況を踏まえ、外海公民館では社会福祉協議会外海支部と外海地区民生・児童委員協議会との協同で「外海ふれあい広場」を開催しています。さらに、今年度は神浦小学校が創立150周年を迎えるにあたり、神浦小学校PTAも仲間に加わりました。

2 地域、学校、そして公民館 それぞれの思い

外海地域の令和5年12月現在の人口構成は、15歳未満(4%)、15歳～65歳未満(41%)、65歳以上(55%)で、少子高齢化が進行してきており、2年後には小学校児童数が10人に満たない現実もあります。加えて、コロナ禍の影響もあり、地域行事や学校行事の担い手が少なくなってきました。



3年ぶりとなる「外海ふれあい広場」は、地域の活性化の方向性に大きな意味をもつこととなります。開催に向け、地域、学校、そして公民館それぞれの立場に立ち、思いを共有することから準備を進めました。そして、その連携を強めるため、毎週木曜日の夜(全7回)、社会福祉協議会・民生児童委員・神浦小学校PTAの代表者による実行委員会を行いました。

開催日時と場所については、神浦小学校の理解と協力を受け、創立150周年記念式典開催日の午後に同校の体育館と決めました。

(1) 地域の思い

長年にわたり社会に尽力された高齢者を敬愛するとともに、各世代間の交流と親睦を図り、明るい地域社会づくりの一助とする。

(2) 学校(PTA)の思い

これからの社会を担うこども達に目を配り、地域一体となった健全育成を図るとともに神浦小学校創立150周年を地域全体で祝う場とする。

(3) 公民館の思い

外海地域の公民館・ふれあいセンター等で活動しているグループや外海地域にゆかりのある方々の発表の場を設けて、活動意欲の伸長及び会員増への啓発を図る。

3 「外海ふれあい広場」の実際

(1) 日時 令和5年11月19日(日) 13:00~16:00

(2) 場所 神浦小学校体育館

(3) 内容 ○ステージ部門(13:00~14:30)

①開会あいさつ

②表彰状伝達(学習グループ指導の功労者)

③発表 <1>ギタッ子(フォーク:長崎)

<2>コーロアルパ(合唱:琴海)

<3>夕陽が丘早乙女会(舞踊:黒崎)

<4>子ども太鼓・神浦小PTA(神浦)



※幕間で外海の活動グループ、地域支援包括センター等の活動の紹介

④閉会挨拶

○催し部門(15:00~16:00)

①長崎工業高校マーチングバンド

②もちまき

※ 記念撮影(ドローンを利用して随時)

○展示部門

①作品(出津クラブ、クラフト倶楽部、出津パッチワークの会、まゆ玉)

②写真(公民館講座、合唱クラブ、卓球クラブ) 池島まつりポスター

(4) 参加者 約250名(各部門の出演者・スタッフ・参観者等)

4 実施後の振り返り(※印は今後の検討事項)

(1) 計画(日時・場所・日程等)

○神浦小創立150年記念祝賀の意義を共有する日時と場所、日程であった。

※今後は高齢者が多く参加することから、寒さ対策も念頭に置いた計画が必要である。

(2) 準備

○実行委員会を毎週木曜日に設定することで、細かい調整ができた。

※開催のアウトラインが決定したのが2か月前であり、関係者との調整が厳しかった。

(3) 当日の動き

○記念式典・ステージ発表・催し等、1日の中で設営と撤去の機会が多かったが、保護者会の動きのおかげで、対応できた。

※さまざまな制約の中で、関係機関との連携で展示物の内容と展示期間を検討する。

(4) まとめ

○神浦小での開催は、多くの参観者を受け入れることができ、親睦も深まった。

○午後の時間を目いっぱい使う段取りができており、ほぼ計画通り実施できた。

○神浦小保護者会と連携して実施できたことを今後の地域づくりの基盤にしたい。

※外海ふれあい広場と神浦地区のイベントを区分けして、活性化していく必要もある。

※餅まきを子どもたちもやりたいという声があり、検討していく。

※児童数の実態(R6は10人前後)から小学校の秋フェスタの内容を吟味して、神浦地区全体のイベントに持っていけないだろうか。